

報道関係各位

## 20代の金銭感覚についての意識調査 2017

貯蓄額は増えたけど、財布の紐はより固く？“勝負財布の中身”は直近4年で最少額に  
 1万円札はもう不要？1万円以上の買い物では「キャッシュレス決済」が多数派に  
 結婚はまだまだ先？「年収400万円あれば結婚したい」が4割切る！結婚へのハードルが上がる傾向

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社(代表取締役社長:幸野 良治、<http://www.smbc-cf.com>)は、2017年10月2日～5日の4日間、20歳～29歳の男女を対象に「20代の金銭感覚についての意識調査2017」をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

### - TOPICS -

#### 【20代のお小遣い・貯蓄事情 リアルと理想】 ……2～3ページ

- ≫ 節約志向が高まった？理想のお小遣い額は昨年比1.2万円減少
- ≫ 20代の貯蓄平均額は133万円、昨年比で50万円近く増加、中央値でも5万円増加と中間層も貯蓄額UP
- ≫ リタイアまでに貯蓄できたら安心する金額は？「2千万円あれば安心」が過半数を占める

#### 【20代の財布の中身とスマホの中身】 ……4～8ページ

- ≫ 20代の8割は「普段の財布の中身は1万円以下」、平均額は9.4千円
- ≫ 貯蓄額は増えたけど、財布の紐はより固く？“勝負財布の中身”は直近4年で最少額に  
20代男性が初デートで安心できる所持金は？ 平均2.3万円
- ≫ もはや現金なしでも生活できる？20代の4人に3人が「電子マネーを普段使い」
- ≫ 20代に人気のマネー系アプリは「ポイントカード」「フリマ」「ネット銀行」フリマアプリの活用が20代の節約術に
- ≫ 1万円札はもう不要？1万円以上の買い物では「キャッシュレス決済」が多数派に
- ≫ モバイル決済でキャッシュレス化進行中 電子マネーアプリを使う人の4割弱は「100円の買い物も電子マネーで」

#### 【おごり・プレゼントの水準】 ……9～10ページ

- ≫ 20代が上司から気持ちよく“おごってもらえる”ボーダーラインは3千円台まで 4千円のおごりだと半数以上が恐縮
- ≫ 義理チョコ予算の目安？彼氏・彼女以外から贈り物を受け取るとき、「3,000円以上だと抵抗がある」が半数以上
- ≫ 20代が友人へ贈る誕生日プレゼントの相場は？社会人は平均5.9千円、学生は平均4.6千円
- ≫ 節約志向が高まる一方、恋人には奮発 Xmasプレゼント予算 平均額は友人への4倍！

#### 【消費の矛先と消費意識】 ……11～15ページ

- ≫ 2017年 20代が積極的に消費したこと TOP3は「友人との交流」「趣味」「身だしなみ・美容」  
「金融投資」を行った20代男性、「自己投資」を行った20代女性が昨年よりも増加、2018年はさらに増加の兆し
- ≫ 金融投資の入り口に？ スマホに「証券アプリ」を入れている20代男性は約1割
- ≫ 働き方改革で消費も上向く？柔軟な働き方が実現したら「積極的に消費したい」が7割半
- ≫ 20代の消費意識 「最安値チェック」は約9割が実施、「安くても良いものを選ぶ人はカッコいい」女性の8割半が同意  
20代の6割半が「背伸び消費に喜び」、男性の半数が「エシカル消費意向あり」
- ≫ SNSも影響 「“いいね”がつきそうで財布の紐が緩む」2割、3人に1人が「SNS投稿のために消費したことがある」
- ≫ “SNS映え”消費の人気は「旅行」「レジャー」「カフェ」、女性は「ファッション(洋服・メイク)」でもSNS映え消費

#### 【結婚、出産・子育てと収入の事情】 ……16～20ページ

- ≫ 埋まらない希望と現実のギャップ 「結婚したら共働き希望」7割も、結婚後の共働き実施率は6割未満
- ≫ 30歳時点の想定世帯年収は平均441万円
- ≫ 結婚はまだまだ先？「年収400万円あれば結婚したい」が4割切る！結婚へのハードルが上がる傾向
- ≫ ライフイベントで過半数が前向きになれる年収 「結婚」500万円、「1人目の子育て」600万円、2人目では700万円！
- ≫ 年収400万円あれば「自家用車の購入に前向き」4割、「自宅の購入に前向き」は2割未満

**アンケート調査結果**
**【20代のお小遣い・貯蓄事情 リアルと理想】**

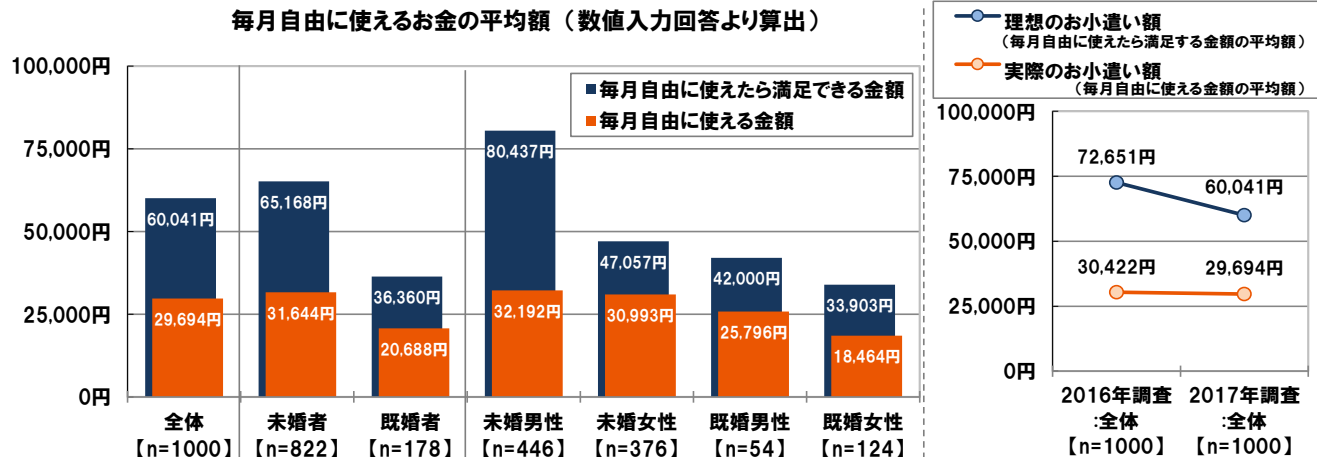
- **節約志向が高まった？理想のお小遣い額は昨年比 1.2 万円減少**
- **20 代の貯蓄平均額は 133 万円、昨年比で 50 万円近く増加、中央値でも 5 万円増加と中間層も貯蓄額 UP**
- **リタイアまでに貯蓄できたら安心する金額は？「2 千万円あれば安心」が過半数を占める**

20 代の金銭感覚についての意識を探る前段として、お小遣い事情や貯蓄事情を把握する質問を行いました。

まず、20 歳～29 歳の男女 1,000 名（全回答者）に対し、毎月自由に使えるお金はいくらあるか聞いたところ、全体の平均額は 29,694 円、未婚者は 31,644 円、既婚者は 20,688 円となりました。20 代の未婚者は 3 万円程度、既婚者は 2 万円程度が毎月自由に使えるお小遣いのようです。

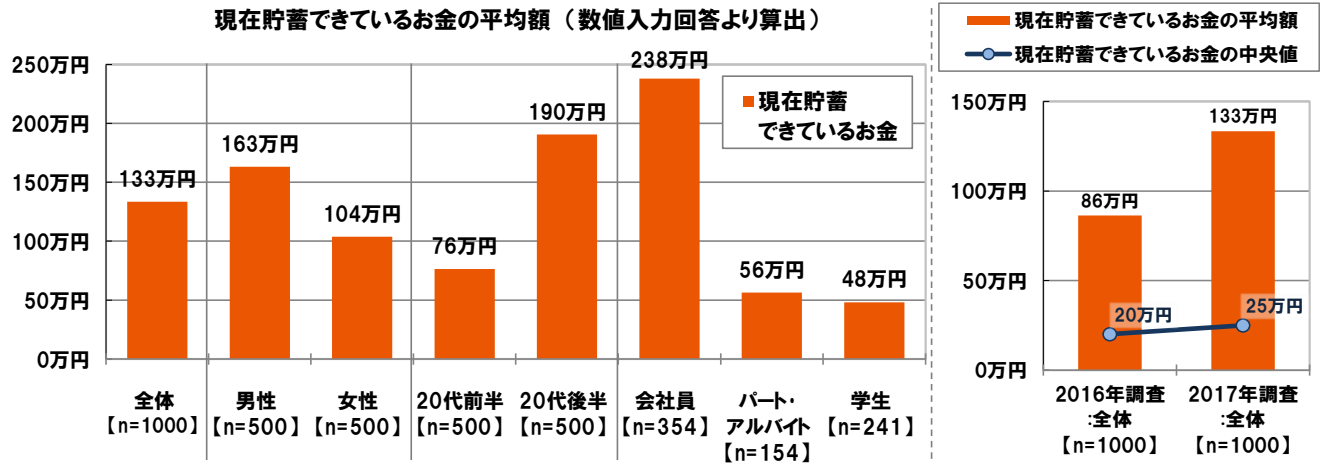
また、毎月自由に使えるお金がどのくらいあれば満足できるか聞いたところ、満足できる金額の平均額は全体で 60,041 円、未婚者では 65,168 円、既婚者では 36,360 円となりました。

同様の質問を実施した昨年（2016 年）の調査結果と比較すると、実際のお小遣い額（毎月自由に使える金額の平均額）は約 700 円減少（2016 年 30,422 円→2017 年 29,694 円）し、理想のお小遣い額（毎月自由に使えたら満足できる金額の平均額）は約 1.2 万円減少（2016 年 72,651 円→2017 年 60,041 円）していることがわかりました。理想とするお小遣い額の水準がかなり引き下がっていることから、節約志向の高まりがうかがえます。多額のお小遣いがなくても満足できる、という考えから、実際のお小遣い額も減少傾向となったのではないのでしょうか。



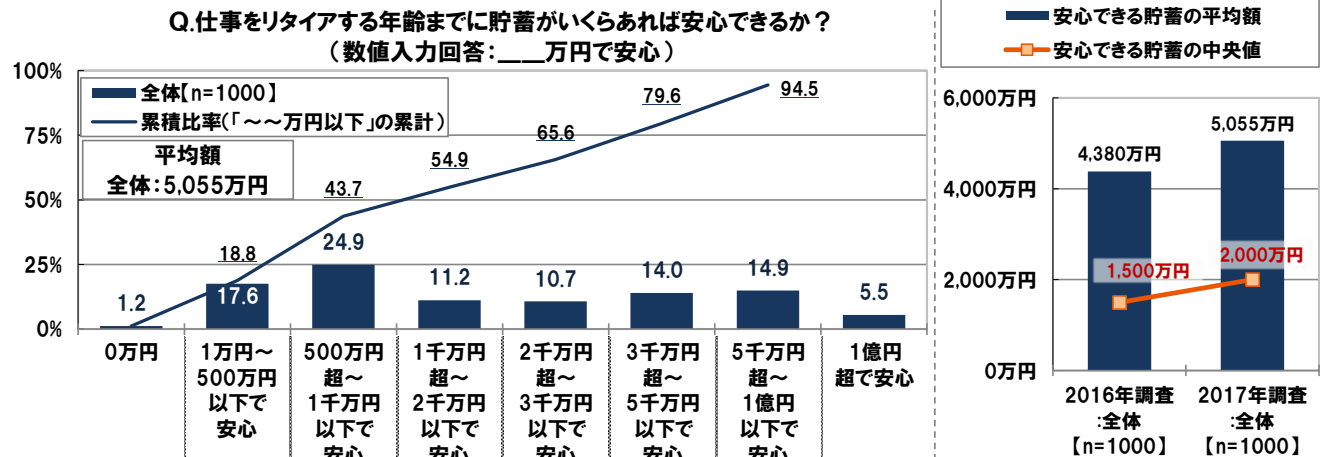
次に、現在貯蓄できているお金はいくらあるか聞いたところ、全体の平均額は133万円、20代前半では76万円、20代後半では190万円となりました。職業別にみると、会社員は238万円、パート・アルバイトは56万円、学生は48万円となっています。

同様の質問を実施した昨年(2016年)の調査結果と比較すると、貯蓄額の平均額は50万円近く増加(2016年86万円→2017年133万円)していることがわかりました。また、中央値でも5万円の増加(2016年20万円→2017年25万円)がみられます。一部の人に限った話ではなく、中間層でも貯蓄額が増加している傾向にあるようです。今年はお小遣いを減らすなど儉約に励み、貯蓄を増やした人が多かった1年だったのではないのでしょうか。



続いて、仕事をリタイアする年齢までに貯蓄がいくらあれば安心できるか聞いたところ、「500万円超～1千万円以下で安心」が24.9%と多く、1千万円あれば安心する人(「1千万円以下」の累計)が43.7%、2千万円あれば安心する人(「2千万円以下」の累計)が54.9%となりました。半数以上の人々が、仕事をリタイアするまでに2千万円程度の貯蓄があれば安心出来るようです。一方、「5千万円超～1億円以下で安心」14.9%や「1億円超で安心」5.5%といった回答も一定数みられ、全体の平均額は5,055万円となりました。将来への不安からか、仕事をリタイアする年齢までにできるだけ多く貯蓄をしなければ、と考えている20代も少なくないようです。

同様の質問を実施した昨年(2016年)の調査結果と比較すると、安心できる貯蓄の平均額は675万円増加(2016年4,380万円→2017年5,055万円)していることがわかりました。また、中央値でも500万円の増加(2016年1,500万円→2017年2,000万円)がみられました。リタイア後のために、しっかり貯蓄を増やす必要があると感じている20代が増えていることから、将来への金銭的な不安が強まっている様子が見えられました。

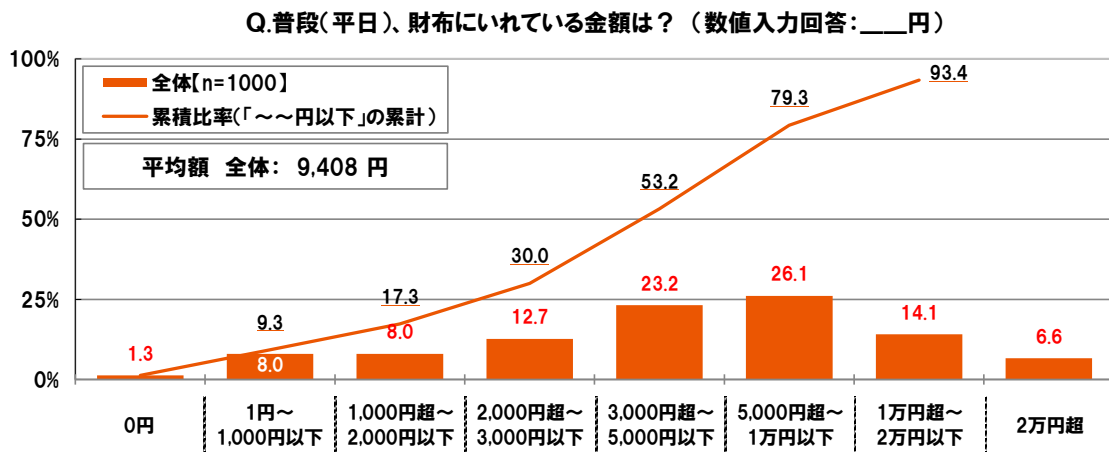


## 【20代の財布の中身とスマホの中身】

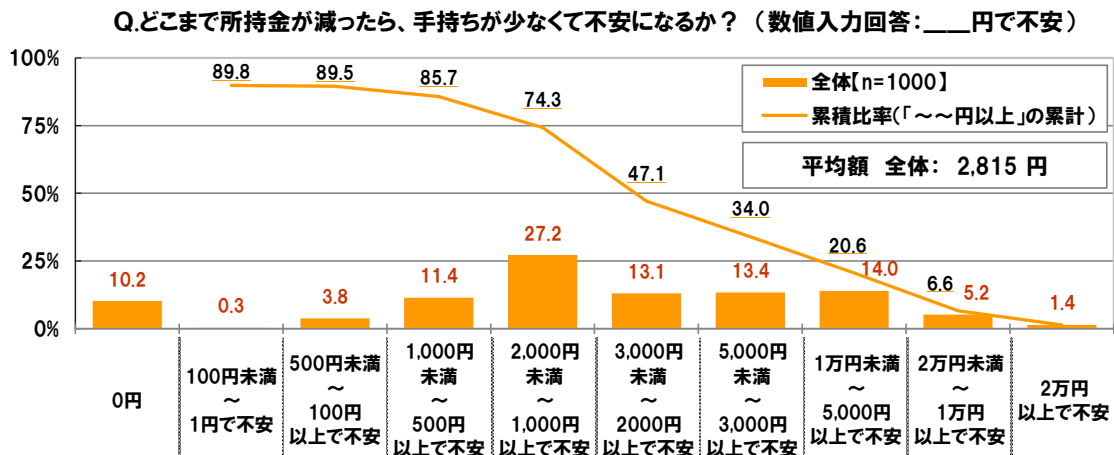
- ≫ 20代の8割は「普段の財布の中身は1万円以下」、平均額は9.4千円
- ≫ 貯蓄額は増えたけど、財布の紐はより固く？“勝負財布の中身”は直近4年で最少額に  
20代男性が初デートで安心できる所持金は？ 平均2.3万円

続いて、20代の財布の中身について質問を行いました。

全回答者(1,000名)に対し、普段(平日)、財布にいられている金額を聞いたところ、「3,000円超～5,000円以下」(23.2%)や「5,000円超～1万円以下」(26.1%)に回答が集中し、所持金が「5,000円以下」が累計で53.2%、「1万円以下」が累計で79.3%となりました。財布の中に1万円札が入っていない20代が多数のようで、平均額は9,408円となりました。

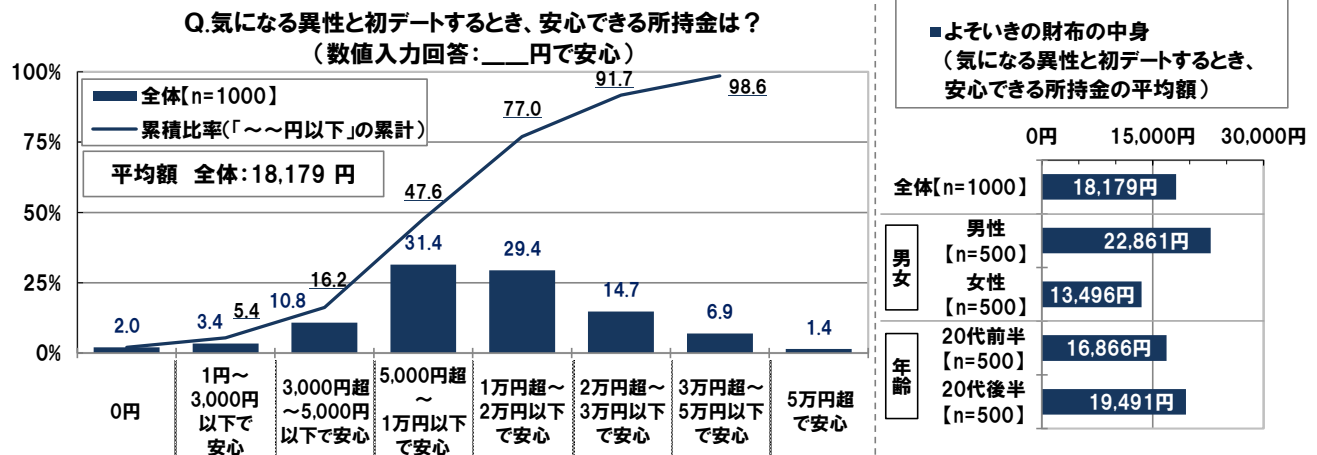


次に、どこまで所持金が減ったら、手持ちが少なくて不安になるかを聞いたところ、3,000円で不安になる人(「3,000円以上」の累計)が34.0%、2,000円で不安になる人(「2,000円以上」の累計)が47.1%、1,000円で不安になる人(「1,000円以上」の累計)が74.3%となり、平均額は2,815円となりました。所持金が3千円を下回り、千円札1、2枚程度になると、財布にお金を追加する人が多いのではないのでしょうか。

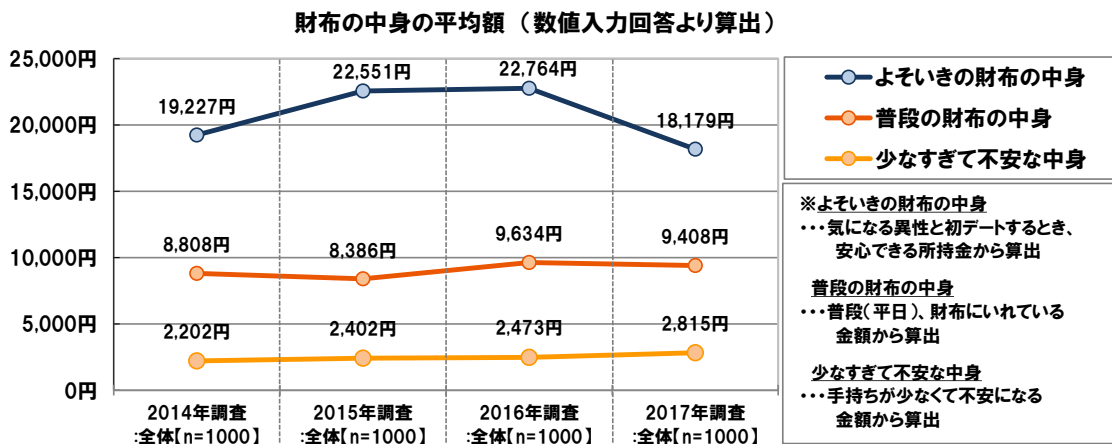


次に、“よそいきの財布の中身”として、気になる異性と初デートするとき、安心できる所持金を聞いたところ、「5,000円超～1万円以下で安心」(31.4%)や「1万円超～2万円以下で安心」(29.4%)、「2万円超～3万円以下で安心」(14.7%)に回答が集中し、平均額は18,179円となりました。初デートなどのよそいきの機会には、普段財布にいれている金額(平均額9,408円)の2倍相当のお金を財布の中に入れておきたいと考えている人が多いようです。

財布の中身を男女別に比較すると、“よそいきの財布の中身”は男性で22,861円となり、女性の13,496円より1万円近く高くなりました。



財布の中身について、同様の質問を実施した過去3回の調査結果と比較すると、よそいきの財布の中身は昨年(2016年)までは増加傾向(2014年19,227円→2015年22,551円→2016年22,764円)であったのが、今年は昨年比でおよそ4.5千円低く(2016年22,764円→2017年18,179円)なり、直近4年で最少額となりました。今年は例年に比べ、初デートなどのよそいきの機会でも、財布の紐を固く締めていた人が多い1年だったようです。ここでも、儉約志向の高まりがうかがえる結果となりました。

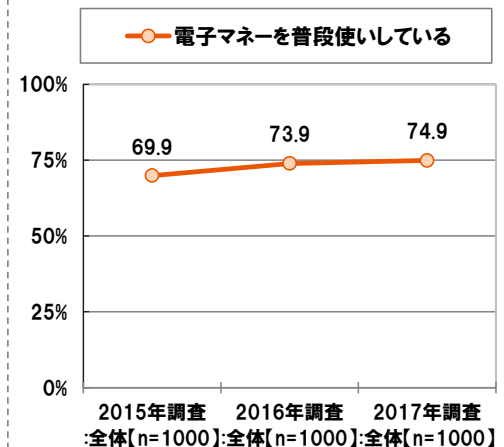
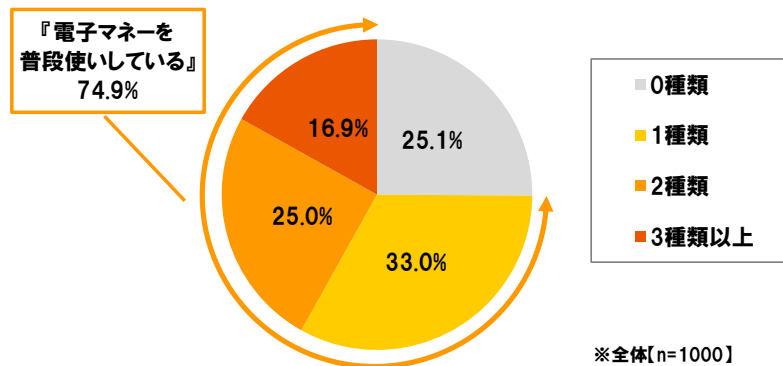


≫ もはや現金なしでも生活できる？20代の4人に3人が「電子マネーを普段使い」

続いて、現金以外の支払い方法や各種カードの利用状況について、質問を行いました。

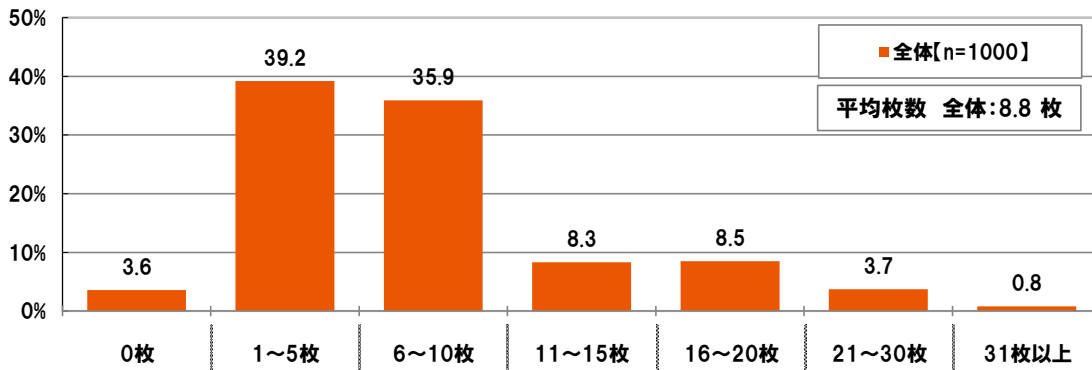
全回答者(1,000名)に、普段使いしている電子マネーは何種類あるか聞いたところ、「1種類」が33.0%、「2種類」が25.0%、「3種類以上」が16.9%となり、それらを合計した『電子マネーを普段使いしている』割合は7割半(74.9%)となりました。20代の4人に3人は、電子マネーを普段使いしているようです。

Q.現金以外の支払い方法として、普段使いしている電子マネーは何種類あるか？  
(数値入力回答: \_\_\_種類)



次に、普段から財布(またはカードケース)にいれて持ち歩いているカード(キャッシュカードやクレジットカード、プリペイドカードや電子マネーカード、ポイントカードや会員証、免許証や健康保険証など)の枚数は何枚か聞いたところ、カードを持ち歩かないとする「0枚」は3.6%とごく少数派で、「1~5枚」(39.2%)や「6~10枚」(35.9%)といった回答が多く集まり、平均枚数は8.8枚となりました。財布の中にクレジットカードやデビットカード、電子マネーカードなど、各種支払いに使えるカードや、様々なポイントカードや会員証が入っていて、お財布がパンパンに膨らんでいる人も少なくないのではないのでしょうか。

Q.普段から財布(またはカードケース)にいれて持ち歩いているカードの枚数は何枚か？  
(数値入力回答: \_\_\_枚)



≫ 20代に人気のマネー系アプリは「ポイントカード」「フリマ」「ネット銀行」フリマアプリの活用が20代の儉約術に

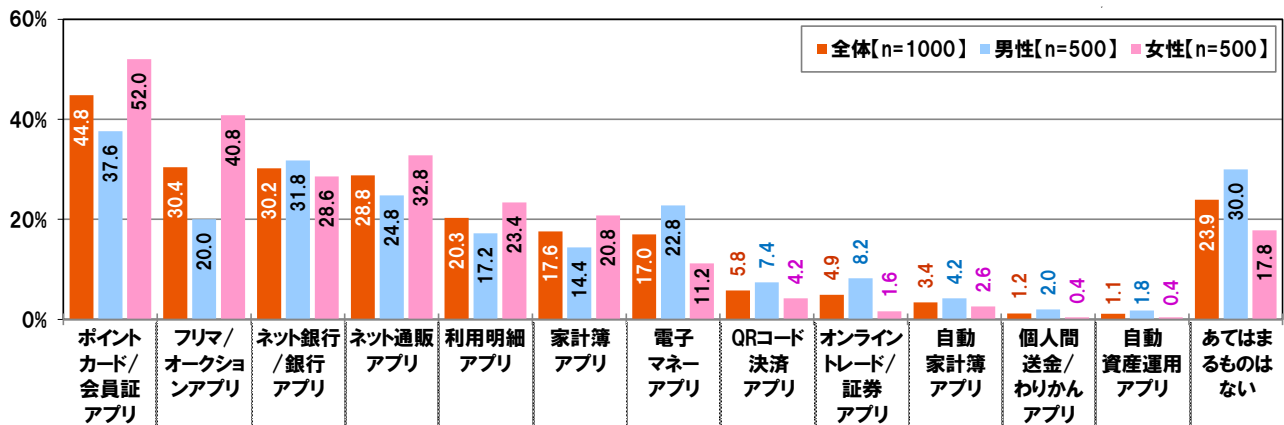
20代の財布の中身についてみてきましたが、スマートフォン(以下、スマホ)の中にも、支払いに使えるアプリや、買い物ができるアプリ、お金の管理に使えるアプリなど、様々なお金に関連するアプリをいれることができます。あまり多くの現金を持ち歩かない一方で、電子マネーや各種カードを普段使いしている人が多い20代は、どのようなマネー系アプリをスマホにいているのでしょうか。20代のスマホの中身について、質問を行いました。

全回答者(1,000名)に、スマホ(または、フィーチャーフォン)にいているお金・買い物関連のアプリについて聞いたところ、「ポイントカード/会員証アプリ」が44.8%で最も多く、次いで、「フリマ/オークションアプリ」が30.4%、「ネット銀行/銀行アプリ」が30.2%、「ネット通販アプリ」が28.8%、「利用明細アプリ(クレジットカードなど)」が20.3%で続きました。ポイントアプリのほか、預金残高やカードの利用明細を確認できるアプリなど、“お金の管理”に役立つアプリが人気のようです。また、フリマアプリをいている割合が、ネット通販アプリをいている割合を上回ったのが特徴的でした。そのほか、支払いに使えるアプリでは、スマホをかざすだけで支払いできる「電子マネーアプリ」が17.0%、中国で利用者が爆発的に増えていることで最近注目を集めている「QRコード決済アプリ」が5.8%となりました。

男女別に見ると、男性は「電子マネーアプリ」が22.8%で、女性(11.2%)のおよそ2倍の割合となりました。また、女性は「ポイントカード/会員証アプリ」が52.0%、「フリマ/オークションアプリ」が40.8%で、男性(それぞれ37.6%、20.0%)よりも高くなりました。男性は電子マネーアプリを、女性はポイントアプリやフリマアプリを活用している人が多いようです。

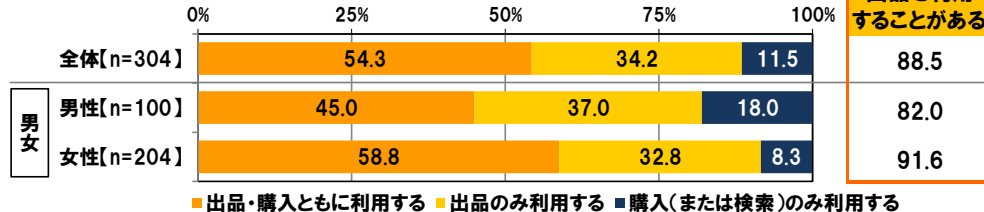
さらに、フリマ/オークションアプリをスマホにいている人(304名)について、アプリの活用状況を確認すると、「出品・購入ともに利用する」が54.3%、「出品のみ利用する」が34.2%となり、それらの合計で出品を利用することがある割合は88.5%、「購入(または検索)のみ利用する」が11.5%となりました。フリマアプリの活用が、20代の儉約術の一つになっているようです。

Q.スマホ(または、フィーチャーフォン)にいているお金・買い物関連のアプリは？(複数回答)



フリマ/オークションアプリの活用状況

※対象:フリマ/オークションアプリをスマホにいている人



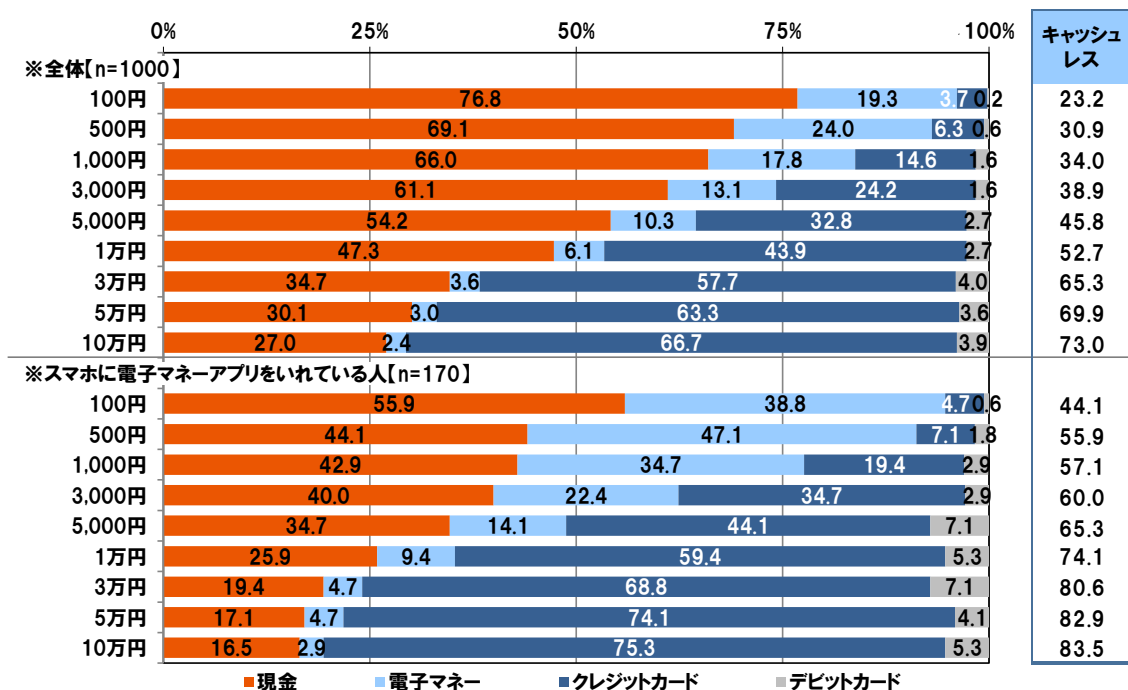
- 1万円札はもう不要？1万円以上の買い物では「キャッシュレス決済」が多数派に
- モバイル決済でキャッシュレス化進行中 電子マネーアプリを使う人の4割弱は「100円の買い物も電子マネーで」

電子マネーを普段から使っていて、各種カードやマネー系のスマホアプリを活用している人が多い20代では、現金とそれ以外の支払い手段をどのように使い分けしているのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、様々な金額の買い物について、どの支払い手段を選ぶか聞いたところ、小さな金額の買い物では「現金」、大きな買い物の金額では「キャッシュレス」(「電子マネー」、「クレジットカード」、「デビットカード」の合計)が多くなる傾向がみられました。100円~5,000円の買い物では「現金」が多数派(100円 76.8%、500円 69.1%、1,000円 66.0%、5,000円 54.2%)になり、1万円以上は「キャッシュレス」が多数派(1万円 52.7%、3万円 65.3%、5万円 69.9%、10万円 73.0%)になりました。1万円以上の買い物ではクレジットカードなどのキャッシュレス払いを使う人が多いことから、普段の財布の中身は1万円以下の人が多いのかもしれませんが。

また、スマホに電子マネーアプリをいれている人の回答に注目すると、100円の買い物では「電子マネー」が38.8%、500円では47.1%、1,000円では34.7%、3,000円では22.4%となりました。電子マネーアプリを利用している人は少額の決済も電子マネーで行っている人が多いようです。また、スマホに電子マネーアプリをいれている人は100円の買物を除き、「キャッシュレス」が多数派となったのが特徴的でした。スマホを使った決済(モバイル決済)の普及が今より進めば、キャッシュレス化が今後さらに進み、財布の中に入れてある現金も少なくなっていくのではないのでしょうか。

Q.以下の金額の買い物で選ぶ支払い方法は？ (各単一回答)





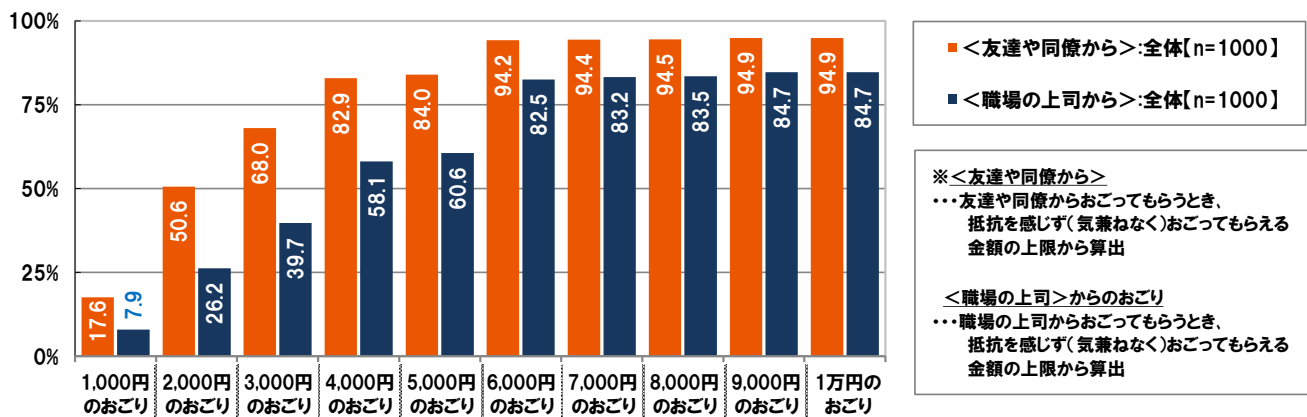
## 【おごり・プレゼントの水準】

- ≫ 20代が上司から気持ちよく“おごってもらえる”ボーダーラインは3千円台まで 4千円のおごりだと半数以上が恐縮
- ≫ 義理チョコ予算の目安？彼氏・彼女以外から贈り物を受け取るとき、「3,000円以上だと抵抗がある」が半数以上

20代がおごってもらうときに、大金すぎて恐縮してしまう金額はどのくらいなのか、質問を行いました。

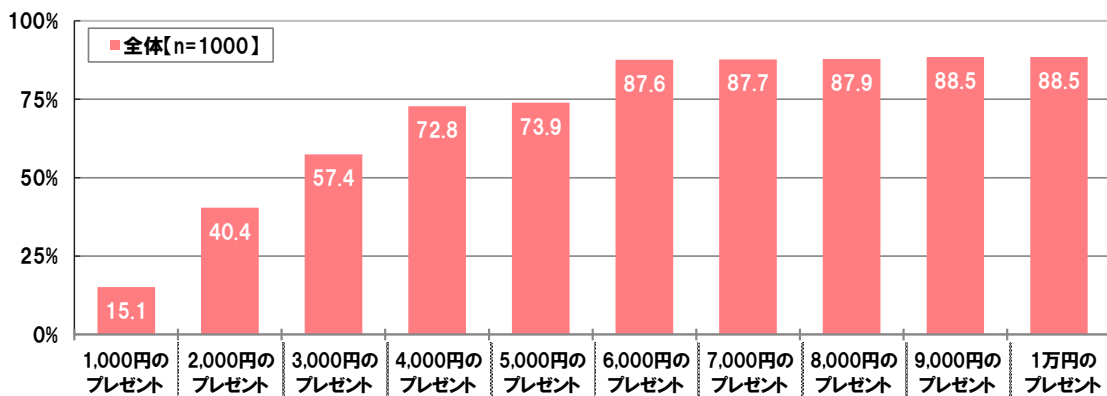
全回答者(1,000名)に対し、＜友達や同僚から＞おごってもらうときのボーダーライン(抵抗を感じない金額の上限)を聞いたところ、1,000円のおごりでは「抵抗を感じる」割合が17.6%、2,000円のおごりでは50.6%、3,000円のおごりでは68.0%となりました。また、＜職場の上司から＞おごってもらうときのボーダーラインについても同様に聞いたところ、2,000円のおごりでは「抵抗を感じる」割合が26.2%、3,000円のおごりでは39.7%と、抵抗を感じる人は少数派ですが、4,000円のおごりになると「抵抗を感じる」割合が58.1%と半数を超え、5,000円のおごりでは60.6%、6,000円のおごりになると82.5%と大多数の人が抵抗を感じるようになりました。

おごってもらうときに「抵抗を感じる」割合（数値入力回答より算出）



また、バレンタインデーやホワイトデーなどの機会に＜恋人でない異性から＞プレゼントを受け取る場合のボーダーラインを聞いたところ、1,000円のプレゼントでは「抵抗を感じる」割合が15.1%、2,000円のプレゼントでは40.4%、3,000円のプレゼントでは57.4%となりました。バレンタインデーやホワイトデーなどの機会に20代にプレゼントを贈るとき、3,000円以上のプレゼントを贈ると相手を恐縮させてしまうことが多いようです。

恋人でない異性からプレゼント(例:バレンタインデーやホワイトデー)を受け取るときに、「抵抗を感じる」割合（数値入力回答より算出）



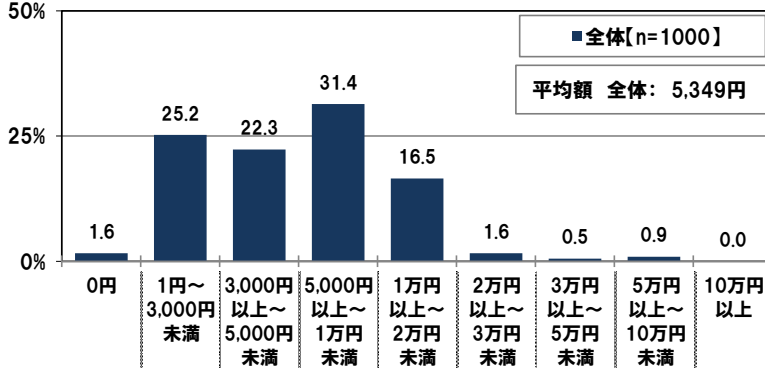
- 20代が友人へ贈る誕生日プレゼントの相場は？社会人は平均 5.9 千円、学生は平均 4.6 千円
- 節約志向が高まる一方、恋人には奮発 Xmas プレゼント予算 平均額は友人への 4 倍！

反対に、自身がプレゼントを贈る側となったとき、特別な日に奮発してプレゼントを贈るなら、どのくらいが予算の上限となるのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、＜友達へ＞特別な日にプレゼント(例:誕生日プレゼント)を贈るときのボーダーライン(奮発できる予算の上限)を聞いたところ、「5,000円以上～1万円未満」に31.4%の回答が集まり、平均額は5,349円となりました。普段、おごってもらうときは2,000円を超えると恐縮してしまう人が多数派でしたが、“誕生日”などの特別な機会に贈るプレゼントであれば、奮発してお祝いしたいとの気持ちを抱く20代が多いようです。

職業別に平均額をみると、会社員は5,917円、パート・アルバイトは4,945円、学生は平均4,562円となりました。就職して会社員になると、学生のころよりも千円以上予算がアップするようです。

Q.友達へ特別な日にプレゼント(例:誕生日プレゼント)を贈るとき、奮発して贈ることができるのはいくら相当のプレゼントか？  
(数値入力回答: \_\_\_円)



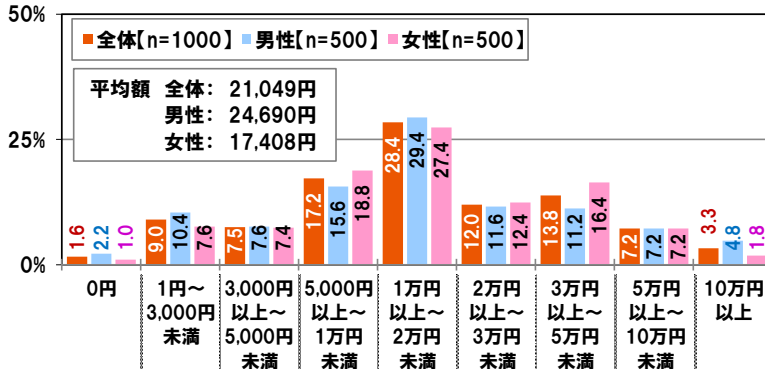
■ 友達へ贈る特別な日のプレゼント予算の平均額

性別/職業	平均額 (円)
全体(n=1000)	5,349円
男性(n=500)	5,733円
女性(n=500)	4,965円
会社員(n=354)	5,917円
パート・アルバイト(n=154)	4,945円
学生(n=241)	4,562円

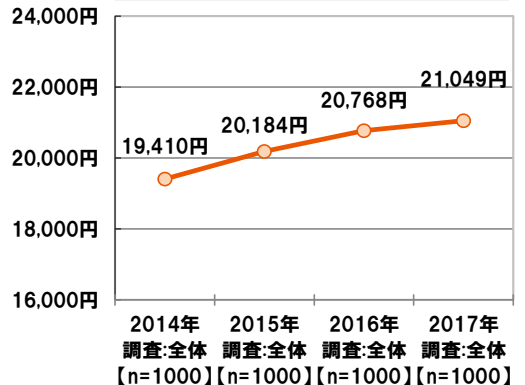
さらに、＜恋人へ＞特別な日にプレゼント(例:クリスマスプレゼント)を贈るときのボーダーラインについても同様に聞いたところ、「1万円以上～2万円未満」に28.4%の回答が集まり、平均額は全体で21,049円となりました。恋人へのプレゼントは予算もより弾む傾向にあり、友人へのプレゼント予算(平均5,349円)のおよそ4倍となっています。20代はシーンや相手との関係性に合わせて、メリハリを効かせたお金の使い方をしているのではないのでしょうか。

男女別に平均額をみると、男性では24,690円、女性では17,408円となっています。男性は恋人へのプレゼント予算を奮発する傾向にあることがわかりました。

Q.恋人へ特別な日にプレゼント(例:クリスマスプレゼント)を贈るとき、奮発して贈ることができるのはいくら相当のプレゼントか？  
(数値入力回答: \_\_\_円)



○ 恋人へ贈る特別な日のプレゼント予算の平均額



## 【消費の矛先と消費意識】

- >> 2017年 20代が積極的に消費したこと TOP3は「友人との交流」「趣味」「身だしなみ・美容」「金融投資」を行った20代男性、「自己投資」を行った20代女性が昨年よりも増加、2018年はさらに増加の兆し
- >> 金融投資の入り口に？ スマホに「証券アプリ」を入れている20代男性は約1割

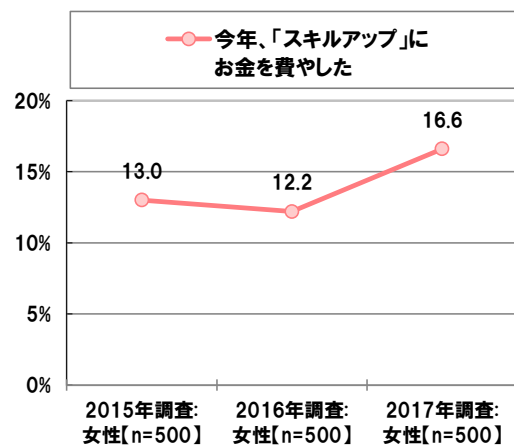
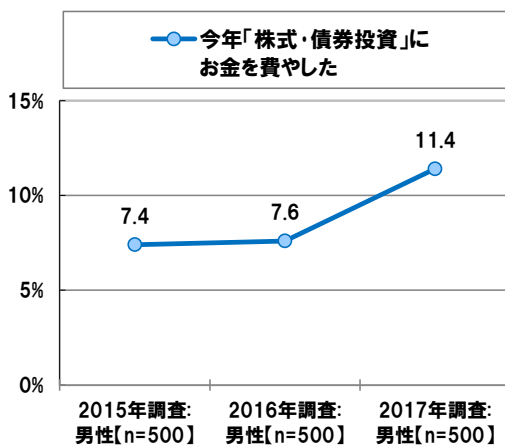
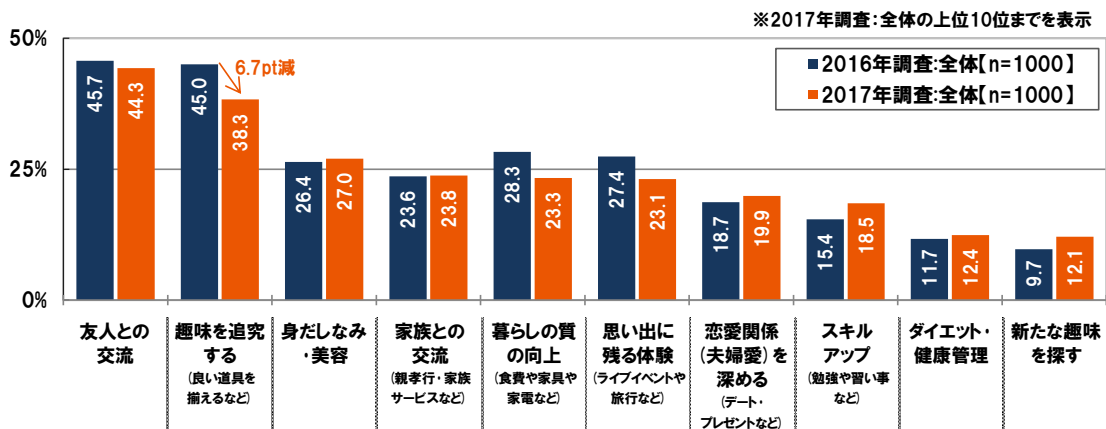
それでは、20代はどんなことにお金を積極的に使っているのでしょうか。

全回答者(1,000名)に対し、今年(2017年)、積極的にお金を費やしたことを聞いたところ、「友人との交流」が44.3%で最も高く、次いで、「趣味を追究する(良い道具を揃えるなど)」が38.3%、「身だしなみ・美容」が27.0%で続きました。友人との交流や趣味を充実させるため、身だしなみや美容などの自分みがきのために積極的にお金を使った人が多いようです。

同様の質問を実施した昨年(2016年)の調査結果と比較すると、「趣味を追究する」は昨年(2016年)から6.7ポイント減少(2016年45.0%→2017年38.3%)していることがわかりました。儉約志向の高まりからか、趣味に使うお金を節約した人が多かったのではないのでしょうか。

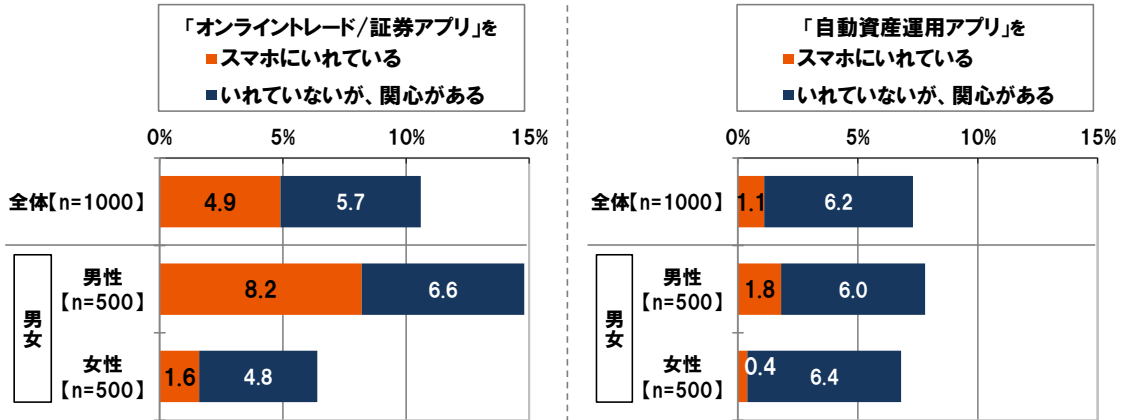
また、男女別にみると、男性は「株式・債券投資」が昨年比で3.8ポイント増加(2016年7.6%→2017年11.4%)し、女性は「スキルアップ(勉強や習い事など)」が昨年比で4.4ポイント増加(2016年12.2%→2017年16.6%)していることがわかりました。男性は金融投資に、女性は自己投資に取り組む人が増えてきているようです。

Q.今年、積極的にお金を費やしたことは？ (各複数回答)



さらに、先程質問していたスマホアプリについて、“金融投資系アプリ”の利用状況に注目してみると、男性は「オンライントレード/証券アプリ」を「スマホにインストールしている」割合が 8.2%、「インストールしていないが、関心がある」割合が 6.6%となっていることがわかります。スマホだけで簡単に金融投資が始められるアプリなどが登場していますが、そういったアプリを入りに、金融投資デビューをした 20 代の男性が少なくなかったのではないのでしょうか。

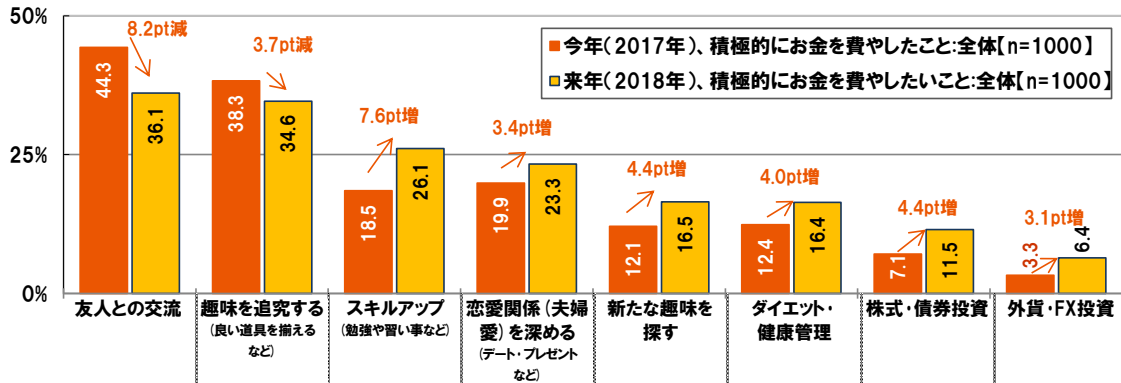
“金融投資系アプリ”の利用状況



続いて、来年(2018年)、積極的にお金を費やしたいことについても聞いたところ、「友人との交流」は 36.1%で今年積極的に費やした割合(44.3%)よりも 8.2ポイント低く、「スキルアップ」は 26.1%、「株式・債券投資」は 11.5%で、今年積極的に費やした割合(それぞれ 18.5%、7.1%)よりも高くなりました。来年は友人との交流にかけられるお金を節約し、スキルアップや金融投資のためにお金を積極的に投じたいと考えている人が多いようです。今後、さらに自己投資や金融投資にお金を費やす 20 代が増えていくのではないのでしょうか。

Q. 来年、積極的にお金を費やしたいことは？ (複数回答)

※「今年、積極的にお金を費やしたこと」と比較して、3pt以上の差がある項目を抜粋



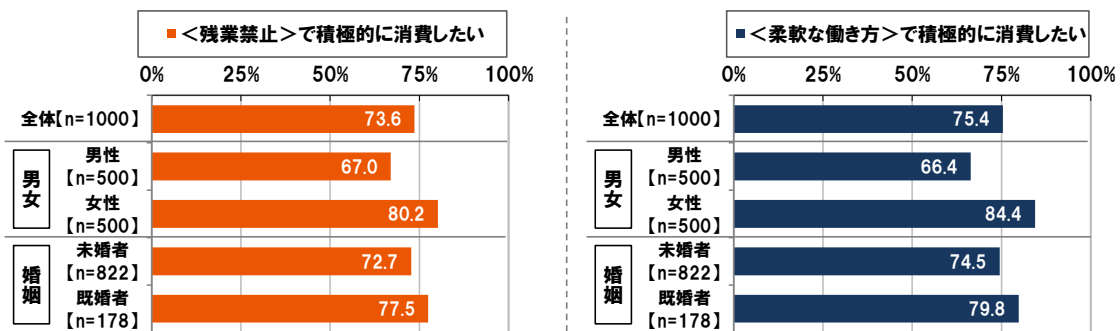
≫ **働き方改革で消費も上向く？柔軟な働き方が実現したら「積極的に消費したい」が7割半**

また、今年“働き方改革”についての取り組みが話題となりました。働き方改革が進んだら、20代の消費意欲は向上するのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、周囲(自身や友人・家族・恋人/配偶者の職場)で一斉に<残業禁止>になったら、今より積極的に消費したいか聞いたところ、「積極的に消費したい」が73.6%となりました。残業がなくなり、終業後の時間に余裕時間が持てるなら、今よりも20代の消費意欲は向上するようです。

また、周囲で一斉に<柔軟な働き方(在宅勤務や週休3日など、自分に合った働く場所・時間が選択可能)>が当たり前になったら、今より積極的に消費したいか聞いたところ、「積極的に消費したい」が75.4%となりました。自分に合った柔軟な働き方が選択できるようになれば、20代の消費意欲は向上するようです。

**周囲(自身や友人・家族・恋人/配偶者の職場)で働き方改革が始まったら、今より積極的に消費したくなる割合(複数回答結果より算出)**  
 ※100%-周囲で働き方改革が始まったら、積極的に消費したいこと「特になし」の割合で算出



また、これらの働き方改革が周囲で実現したら、どのようなことに積極的にお金を費やしたいか聞いたところ、<残業禁止>でも<柔軟な働き方>でもTOP3は同一で、1位「友人との交流」、2位「趣味を追究する」、3位「家族との交流」となりました。また、4位はどちらも「スキルアップ」となっています。働き方改革が実現したら、積極的に消費するだけでなく、自己投資にもしっかり取り組みたいと考える20代が多いようです。

**Q.働き方改革が周囲で始まったら、どんなことに積極的にお金を費やしたいか(各複数回答)**  
 ※全体[n=1000] ※上位10位までを表示

<残業禁止>			<柔軟な働き方>		
順位	項目	%	順位	項目	%
1位	友人との交流	32.8	1位	友人との交流	31.8
2位	趣味を追究する (良い道具を揃えるなど)	27.5	2位	趣味を追究する (良い道具を揃えるなど)	31.0
3位	家族との交流 (親孝行・家族サービスなど)	21.3	3位	家族との交流 (親孝行・家族サービスなど)	23.4
4位	スキルアップ(勉強や習い事など)	20.0	4位	スキルアップ(勉強や習い事など)	21.0
5位	新たな趣味を探す	16.9	5位	思い出に残る体験 (ライブイベントや旅行など)	20.0
6位	恋愛関係(夫婦愛)を深める (デート・プレゼントなど)	16.6	6位	新たな趣味を探す	18.7
7位	身だしなみ・美容	14.6	7位	恋愛関係(夫婦愛)を深める (デート・プレゼントなど)	16.5
8位	思い出に残る体験 (ライブイベントや旅行など)	13.4	8位	暮らしの質の向上 (食費や家具や家電など)	14.1
9位	暮らしの質の向上 (食費や家具や家電など)	13.2	9位	身だしなみ・美容	13.7
10位	ダイエット・健康管理	11.4	10位	ダイエット・健康管理	12.0

- ▶ **20代の消費意識「最安値チェック」は約9割が実施、「安くても良いものを選ぶ人はカッコいい」女性の8割半が同意**  
**20代の6割半が「背伸び消費に喜び」、男性の半数が「エンカル消費意向あり」**
- ▶ **SNSも影響「“いいね”がつきそうで財布の紐が緩む」2割、3人に1人が「SNS投稿のために消費したことがある」**
- ▶ **“SNS映え”消費の人気は「旅行」「レジャー」「カフェ」、女性は「ファッション(洋服・メイク)」でもSNS映え消費**

全回答者(1,000名)に対し、お金の使い方に関する意識について、どの程度同意するか聞いたところ、<購入検討する際、同じ商品群・サービスの中で“最安値”のものは必ずチェックする>では、『そう思う』(「非常に」+「やや」)は87.8%(男性86.2%、女性89.4%)でした。買い物前に最安値をチェックするのは、20代では当然の行動のようです。

一方で、<“少し背伸びして、良いもの(好きなもの・欲しいもの)にお金をかけること”に喜びを感じる>では、『そう思う』は64.2%(男性62.4%、女性66.0%)、<多少高くても、社会のためになる活動をしている企業の商品・サービスを購入したい>では、『そう思う』は44.2%(男性49.8%、女性38.6%)でした。どんなときでも“最安値を優先”というわけではなく、自身が価値を感じた良いものや社会貢献している企業の商品は、割高であっても購入することがあるようです。

そういった消費意識を持っているためか、<ブランドや人気に関わらず、安くても良いものを選ぶ人はカッコいい>では、『そう思う』が79.7%(男性74.6%、女性84.8%)となっています。ブランドや他者の評価に惑わされることなく、自分自身で“良いもの”を選別できる人は、憧れの対象であるようです。

また、購入判断にSNSがどの程度影響しているかについて聞くと、<行きたい場所や欲しいものを探すときに画像検索(Instagramなど)をよく利用する>では、『そう思う』が44.9%となり、<SNSに“いいね”がつきそうなもの・ことには財布の紐が緩む>では、『そう思う』が21.0%となりました。自身の欲求を商品に結びつける“イメージ固め”をするために、SNSなどに投稿された画像を検索して眺めたり、実際に商品を購入するシーンで、“SNSにアップしたら反響があるかも”と感じて購入意欲が湧いたりすることが少なくないようです。

Q.お金の使い方に関する意識について、どの程度同意するか？(各単一回答)

		0%	25%	50%	75%	100%	そう思う (計)	そう思 わない (計)	
		<b>&lt;購入検討する際、同じ商品群・サービスの中で“最安値”のものは必ずチェックする&gt;</b>							
全体(n=1000)		41.4 46.4 9.7 2.5					87.8	12.2	
男女	男性(n=500)	37.4 48.8 10.8 3.0					86.2	13.8	
	女性(n=500)	45.4 44.0 8.6 2.0					89.4	10.6	
		<b>&lt;“少し背伸びして、良いもの(好きなもの・欲しいもの)にお金をかけること”に喜びを感じる&gt;</b>							
全体(n=1000)		22.0 42.2 27.3 8.5					64.2	35.8	
男女	男性(n=500)	21.6 40.8 29.2 8.4					62.4	37.6	
	女性(n=500)	22.4 43.6 25.4 8.6					66.0	34.0	
		<b>&lt;多少高くても、社会のためになる活動をしている企業の商品・サービスを購入したい&gt;</b>							
全体(n=1000)		9.8 34.4 39.8 16.0					44.2	55.8	
男女	男性(n=500)	12.6 37.2 35.8 14.4					49.8	50.2	
	女性(n=500)	7.0 31.6 43.8 17.6					38.6	61.4	
		<b>&lt;ブランドや人気に関わらず、安くても良いものを選ぶ人はカッコいい&gt;</b>							
全体(n=1000)		40.5 39.2 15.2 5.1					79.7	20.3	
男女	男性(n=500)	36.2 38.4 19.4 6.0					74.6	25.4	
	女性(n=500)	44.8 40.0 11.0 4.2					84.8	15.2	
		<b>&lt;行きたい場所や欲しいものを探すときに画像検索(Instagramなど)をよく利用する&gt;</b>							
全体(n=1000)		16.8 28.1 28.4 26.7					44.9	55.1	
男女	男性(n=500)	13.8 28.0 28.4 29.8					41.8	58.2	
	女性(n=500)	19.8 28.2 28.4 23.6					48.0	52.0	
		<b>&lt;SNSに“いいね”がつきそうなもの・ことには財布の紐が緩む&gt;</b>							
全体(n=1000)		7.3 13.7 26.4 52.6					21.0	79.0	
男女	男性(n=500)	9.0 15.6 26.4 49.0					24.6	75.4	
	女性(n=500)	5.6 11.8 26.4 56.2					17.4	82.6	

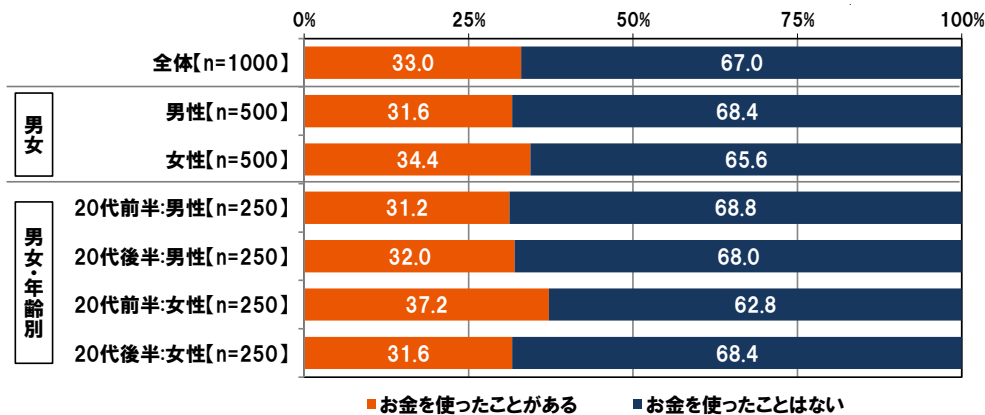
■非常にそう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

昨今では、若者世代に人気の SNS、“インスタグラム”に投稿するために、写真映えのするものやことに積極的に消費をする、“インスタ映え消費”が話題となっています。このように、SNS に投稿することが動機となって、消費をした経験は 20 代の男女ではどのくらいあるのでしょうか。

全回答者(1,000 名)に、SNS に投稿する写真や動画を撮影するために、お金を使ったことがあるか聞いたところ、「お金を使ったことがある」は 33.0%となりました。20 代の 3 人に 1 人の割合で、“SNS 映え消費”の経験があるようです。

男女・年齢別にみると、20 代前半の女性は「お金を使ったことがある」が 37.2%で、そのほかの層よりも高くなりました。SNS 映え消費には、比較的若い女性で活発に行われているようです。

Q.SNSに投稿する写真や動画を撮影するために、お金を使ったことがあるか



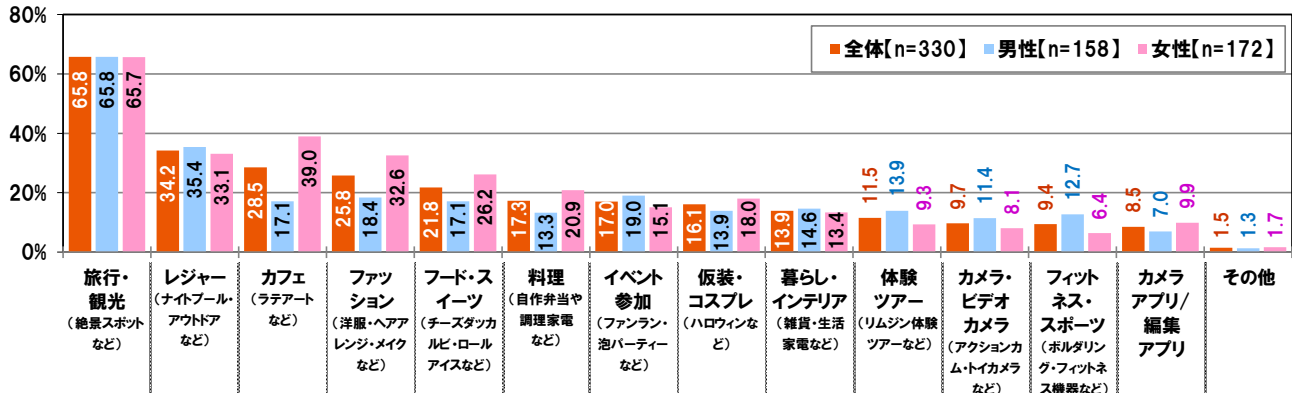
では、SNS に投稿する写真や動画の撮影のために、どのようなことに消費したのでしょうか。

SNS に投稿する写真や動画を撮影するためにお金を使ったことがある人(330 名)に、どのようなことにお金を使ったか聞いたところ、1 位は「旅行・観光(絶景スポットなど)」で 65.8%、2 位は「レジャー(ナイトプール・アウトドアなど)」で 34.2%、3 位は「カフェ(ラテアートなど)」で 28.5%でした。

男女別にみると、女性は「カフェ」(39.0%)や「ファッション(洋服・ヘアアレンジ・メイクなど)」(32.6%)などにお金を使った割合が、男性(それぞれ 17.1%、18.4%)よりも高くなるなど、特徴がみられました。

Q.SNSに投稿する写真や動画の撮影のために、どのようなことにお金を使ったか？ (複数回答)

※対象: SNSに投稿する写真や動画を撮影するためにお金を使ったことがある人



**【結婚、出産・子育てと収入の事情】**

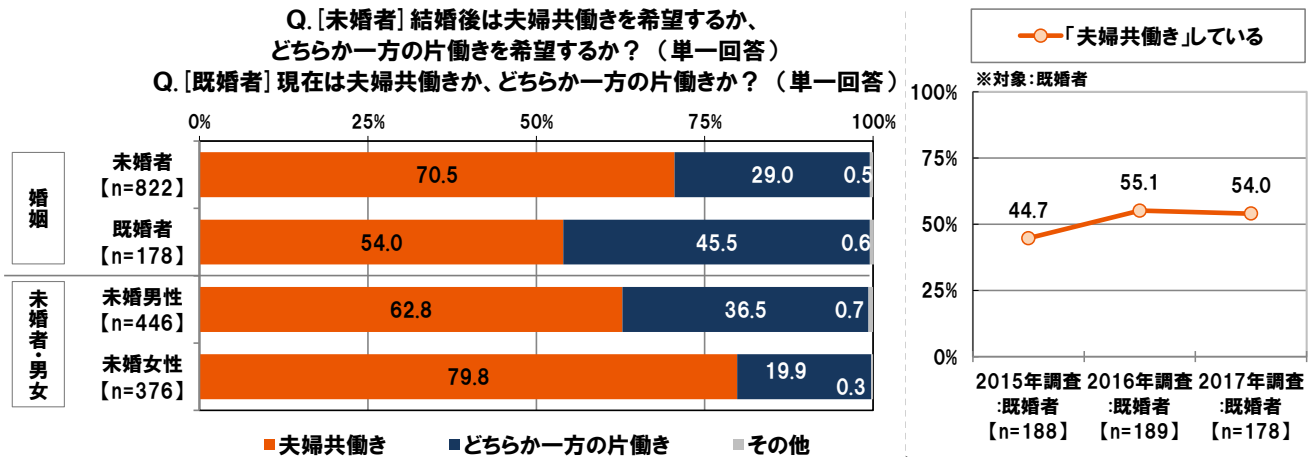
- 埋まらない希望と現実のギャップ「結婚したら共働き希望」7割も、結婚後の共働き実施率は6割未満
- 30歳時点の想定世帯年収は平均441万円

20代は将来の生活をどのように思い描いているのでしょうか。

未婚者(822名)に対し、結婚後は夫婦共働きを希望するか、どちらか一方の片働きを希望するか聞いたところ、「夫婦共働き」が70.5%で多数派となりました。未婚女性では、「夫婦共働き」を希望する人が79.8%と、未婚男性(62.8%)に比べて高くなっています。結婚後は夫婦共働きをしたい女性が多いようです。

次に、既婚者(178名)に対し、現在は夫婦共働きか、どちらか一方の片働きか聞いたところ、「夫婦共働き」が54.0%、「どちらか一方の片働き」が45.5%となりました。夫婦共働きを実践している割合は、希望する割合ほど高くないようです。共働きの意欲はあるけれども、諸々の事情で共働きできない環境に置かれているという人が多いのではないのでしょうか。

同様の質問を実施した過去2回の調査結果と比較すると、既婚者が「夫婦共働き」している割合は、一昨年から昨年でおおよそ10ポイント上昇(2015年44.7%→2016年55.1%)していましたが、今年は昨年と比べて大きな変化はみられず(2016年55.1%→2017年54.0%)、伸び悩んでいることがわかりました。若い世代が夫婦共働きしやすい環境の整備が進んでいないためか、結婚後の働き方の理想と現実のギャップは埋まっていないようです。

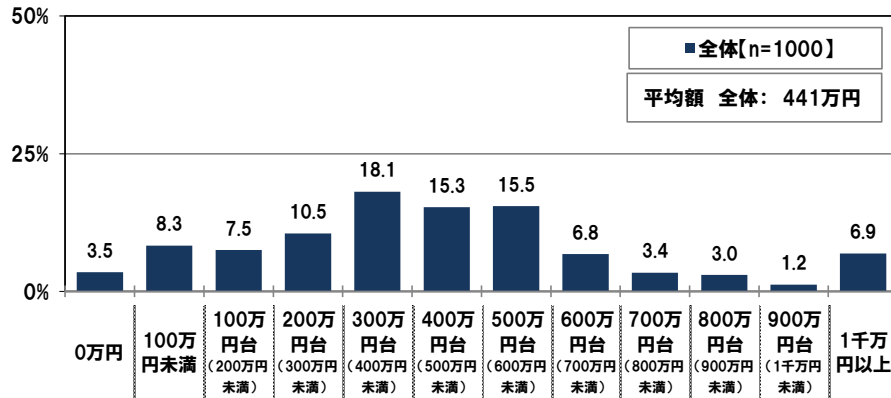




続いて、全回答者(1,000名)に対し、30歳になったとき、年収(世帯年収)はどのくらいになると想定しているか聞いたところ、「300万円台」(18.1%)や「400万円台」(15.3%)、「500万円台」(15.5%)に回答が集まり、平均額は441万円となりました。

婚姻状況別に平均額をみると、未婚者は415万円、既婚者は558万円となり、未婚者の想定世帯年収のほうが低いことがわかります。さらに、未婚者を男女別にみると、未婚男性は平均449万円、未婚女性は375万円となり、未婚女性は特に想定世帯年収が低いことがわかりました。

Q.30歳になったとき、年収(世帯年収)はどのくらいになると想定しているか？  
(数値入力回答:年収\_\_万円)



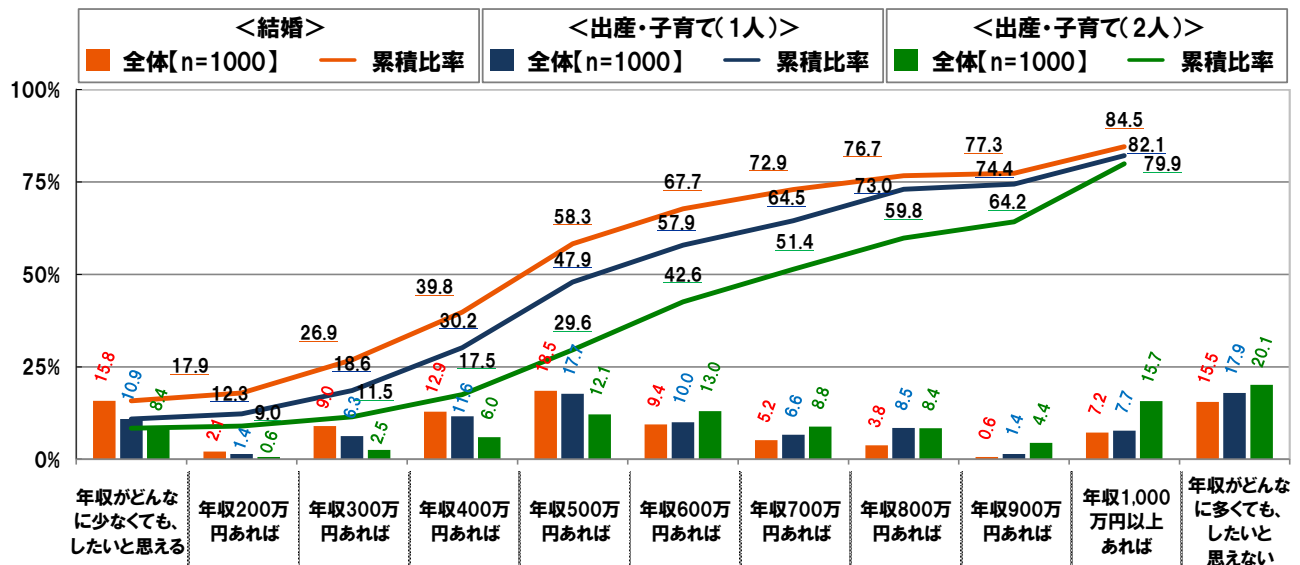
■30歳時点の想定世帯年収の平均額		0万円	300万円	600万円
全体(n=1000)		441万円		
婚姻	未婚者【n=822】	415万円		
	既婚者【n=178】	558万円		
未婚者・男女	未婚男性【n=446】	449万円		
	未婚女性【n=376】	375万円		

- ≫ 結婚はまだまだ先？「年収 400 万円あれば結婚したい」が 4 割切る！結婚へのハードルが上がる傾向
- ≫ ライフイベントで過半数が前向きになれる年収 「結婚」500万円、「1人目の子育て」600万円、2人目では700万円！
- ≫ 年収 400 万円あれば「自家用車の購入に前向き」4 割、「自宅の購入に前向き」は 2 割未満

では、どのくらいの世帯年収があれば、結婚や出産・子育てをしたいと思えるようになるのでしょうか。

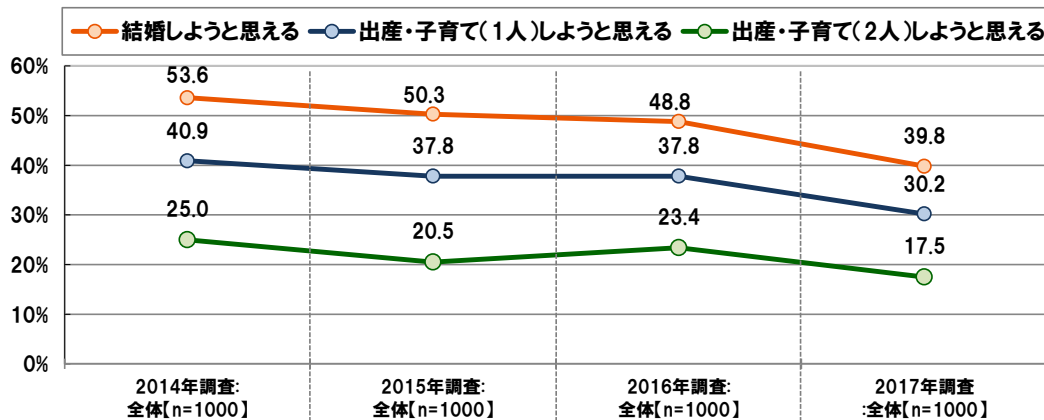
全回答者(1,000名)に、<結婚>をしようと思える世帯年収を聞いたところ、年収 300 万円ですようと思える割合(「年収 300 万円あれば」までの累計)は 26.9%、年収 400 万円ですようと思える割合(「年収 400 万円あれば」までの累計)は 39.8%、年収 500 万円ですようと思える割合(「年収 500 万円あれば」までの累計)は 58.3%となりました。また、<出産・子育て(1人)>をしようと思える割合は、年収 400 万円です 30.2%、年収 500 万円です 47.9%、年収 600 万円です 57.9%となり、<出産・子育て(2人)>をしようと思える割合は、年収 400 万円です 17.5%、年収 500 万円です 29.6%、年収 600 万円です 42.6%、年収 700 万円です 51.4%、年収 800 万円です 59.8%、年収 900 万円です 64.2%、年収 1,000 万円以上あれば 77.3%、年収 1,000 万円以上あれば 84.5%となりました。

Q.しようと思える年収(世帯年収)は？(各単一回答)  
 <結婚>と<出産・子育て(1人)>と<出産・子育て(2人)>



同様の質問を実施した過去3回の調査結果と、年収400万円で結婚や子育てしようと思える割合を比較すると、<結婚>では、昨年から9.0ポイント減少(2016年48.8%→2017年39.8%)、3年前からは13.8ポイント減少(2014年53.6%→2017年39.8%)していることがわかりました。また、<出産・子育て(1人)>では、昨年から7.6ポイント減少(2016年37.8%→2017年30.2%)、3年前からは10.7ポイント減少(2014年40.9%→2017年30.2%)しており、結婚と子育てのどちらも下落傾向がみられました。夫婦共働きの実現が難しい状況は改善される見込みが持てず、結婚後の生活に金銭不安がつきまとう状況が続いているためか、結婚や子育てに対する金銭的・心理的なハードルが徐々に押し上げられてしまっているのではないのでしょうか。

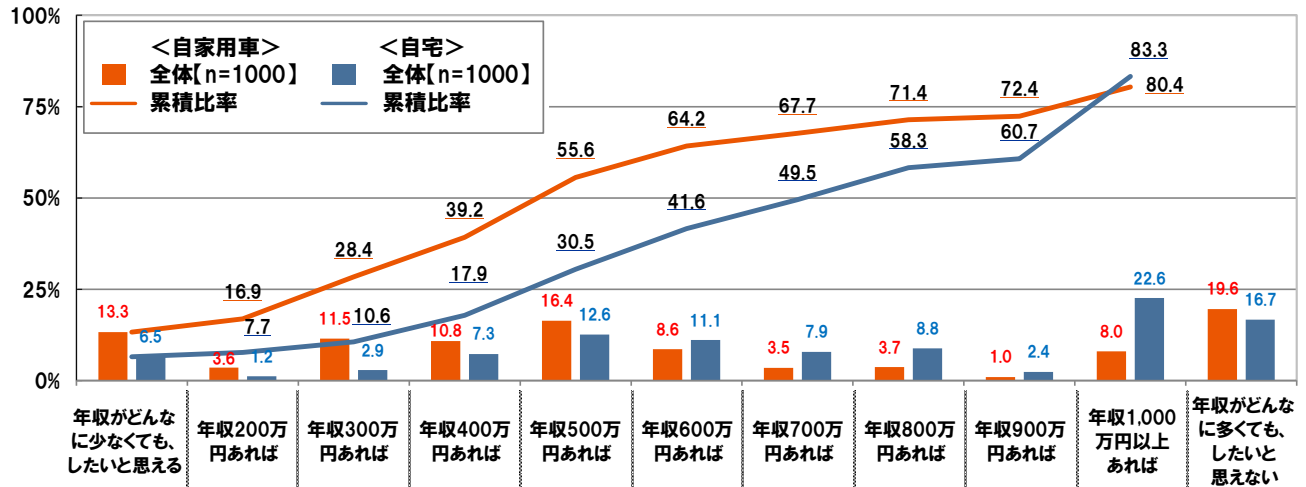
世帯年収400万円で結婚や子育てをしようと思える割合 (単一回答結果より算出)



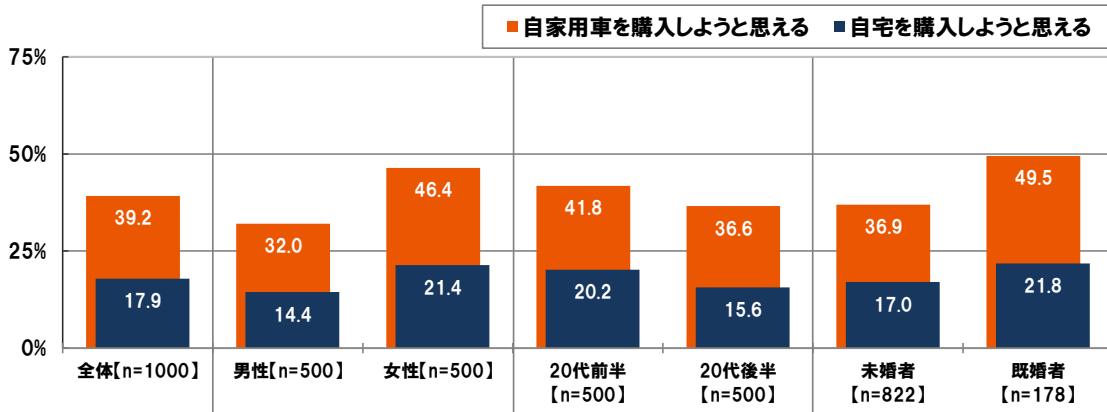
また、車や住宅の購入についても同様に、しようと思える世帯年収額を聞いたところ、＜自家用車＞を所有しよう（購入しよう）と思える割合は、年収 400 万円で 39.2%、年収 500 万円で 55.6%となり、＜住宅＞を所有しよう（購入しよう）と思える割合は、年収 400 万円で 17.9%、年収 500 万円で 30.5%となりました。

婚姻状況別に年収 400 万円で車や住宅を購入しようと思う人の割合をみると、未婚者は＜自家用車＞が 36.9%、＜住宅＞が 17.0%となり、既婚者（それぞれ 49.5%、21.8%）よりも低くなりました。同じ世帯年収で比較した場合、未婚者よりも既婚者のほうが、車や住宅の購入に前向きであるようです。

**Q.所有しよう(購入しよう)と思える年収(世帯年収)は？（各単一回答）**  
**＜自家用車＞と＜自宅＞**



**世帯年収400万円で、購入しようと思う方の割合（単一回答結果より算出）**



《調査概要》

- ◆調査タイトル : 20代の金銭感覚についての意識調査 2017
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする  
20歳～29歳の男女
- ◆調査期間 : 2017年10月2日～5日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル(有効回答から男女×20代前半・後半が均等になるように抽出)
- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

本リリースの内容の転載にあたりましては、  
「SMBC コンシューマーファイナンス調べ」と付記のうえ、  
ご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

URL: <http://www.smbc-cf.com/bincan-station/antenna/08.html>

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

SMBC コンシューマーファイナンス株式会社  
担当 : 広報 CSR 部 尾形・佐藤綾花  
TEL : 03-3543-7360  
Eメール : corporate\_info@smbc-cf.com  
受付時間 : 9時00分～18時00分(月～金)

■■会社概要■■

会社名 : SMBC コンシューマーファイナンス株式会社  
(英訳名 SMBC Consumer Finance Co., Ltd.)  
設立 : 1962年(昭和37年)3月20日  
代表者名 : 幸野 良治  
所在地 : 東京都中央区銀座四丁目12番15号  
事業内容 : 貸金業・保証業